

## 4. JR可部線の需要予測

### 4. 1 需要予測のケースと方法

#### (1) 需要予測方法

##### ① 予測フロー

J R線新駅の需要予測の方法としては、「駅勢圏法」が一般的な手法であり、今回の予測においても、「駅勢圏法」をベースとした需要予測を行う。ただし、対象地域にはJ R可部駅が含まれており、J R可部駅はフィーダーバスを用いた広範囲な利用圏を有するターミナル駅として機能していることから、「正規分布モデル」と併用した需要予測を行う。

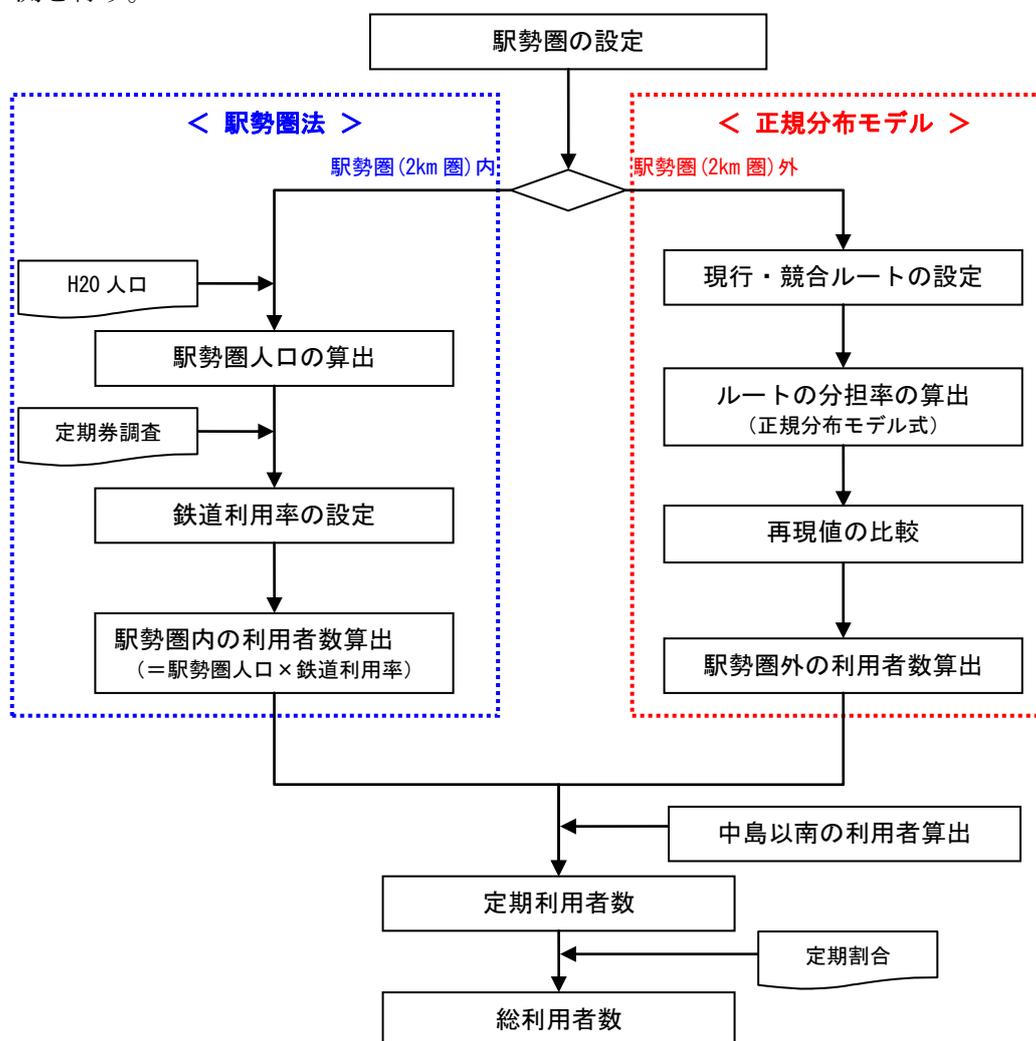


図 4.1 需要予測の実施フロー

## (2) JR可部駅の駅勢圏

### ① JR可部駅の駅勢圏の設定

- JR可部駅を中心とした等距離の円で、駅勢圏を設定。
- 円の距離は、一般的な利用圏である徒歩1km、二輪2kmでモデル化。
- 中島駅との境界は円の折半線。



図 4.2 JR可部駅の駅勢圏（1km圏・2km圏）

### (3) 駅勢圏及び需要予測ケースの設定

#### ① 旧河戸延伸

旧河戸駅を活用する河戸までの電化延伸のパターン。

#### ○旧河戸延伸の駅勢圏

□ 各駅を中心とした等距離の円で、駅勢圏を設定。

□ 円の距離は、一般的な利用圏である徒歩 1km、二輪 2km でモデル化。



図 4.3 旧河戸延伸の駅勢圏

現況での定期利用者数は、可部駅 2km 圏内に 700 人、河戸駅 2km 圏内に 717 人。  
残る圏外に現況での定期利用者数が 802 人。

## ② 新河戸延伸

県営住宅跡地（新河戸駅）まで延伸するとともに、中間駅（可部新駅）を設置するパターン。

### ○新河戸延伸の駅勢圏

- 各駅を中心とした等距離の円で、駅勢圏を設定。
- 円の距離は、一般的な利用圏である徒歩 1km、二輪 2km でモデル化。



図 4.4 新河戸延伸の駅勢圏

現況での定期利用者数は、可部駅・可部新駅・新河戸駅の 2km 圏内に合計 1450 人。  
残る圏外に現況での定期利用者数が 769 人。

### ③運行頻度パターン

可部～緑井間については、現行は20分間隔で運行（ピーク時）をしている。  
これを10分間隔で運行した場合について、需要予測により検討を行う。

### ④予測ケース

以上から、「延伸パターン」および「運行頻度パターン」をクロスした、以下の5ケースについて需要予測を行う。

表 4.1 予測ケース

	内 容	略図		内 容	略図
ケース 1	緑井～可部間 10分間隔運行	<p>延伸なし 可部 10分ヘッド 緑井</p>	ケース 4	電化延伸（新河 戸+中間駅）	<p>新河戸 20分ヘッド 可部 20分ヘッド 緑井</p>
ケース 2	電化延伸（旧河 戸駅）	<p>旧河戸 20分ヘッド 可部 20分ヘッド 緑井</p>	ケース 5	緑井～新河戸間 10分間隔運行 電化延伸（新河 戸+中間駅）	<p>新河戸 10分ヘッド 可部 10分ヘッド 緑井</p>
ケース 3	緑井～旧河戸間 10分間隔運行 電化延伸（旧河 戸駅）	<p>旧河戸 10分ヘッド 可部 10分ヘッド 緑井</p>			

## 4. 2 需要予測の結果

ケース毎の需要予測の結果を以下に示す。数値は、施策による増加人数を明記した。

表 4.2 ケース毎の増加人員

	需要予測(人/日)			
	新駅設置		10分 ヘッド	合計
	2km圏内	2km圏外		
ケース1	0	0	450	450
ケース2	530	0	0	530
ケース3	530	0	380	910
ケース4	680	20	0	680
ケース5	680	20	500	1,200